

UBE三菱セメント株式会社 2024 年度第 1 四半期決算説明会 質疑応答

日 時：2024 年 8 月 20 日(火)16:00 - 16:30

登壇者：UBE三菱セメント株式会社 常務執行役員 加藤 秀樹

【投資家・アナリスト向け説明会】

Q1：国内セメント値上げについて

- ・ 2024 年 5 月に発表された国内セメント値上げ 2,000 円について、顧客や生コンメーカーとの取り組みの進捗を教えてください。
- ・ 過去の値上げでは十分転嫁できていないこと等も鑑みれば、2025 年の値上げは妥当と考えているが、今後の需給バランスやコストアップ要因について、考えを聞かせてほしい。
- ・ 今後セメント内需がさらに下振れしていく場合、今の値上げ水準では不十分になるのではないかと。今後の価格改定のスタンスについて教えてください。

A1：

- ・ 現時点では、サプライチェーン全体での価格転嫁を推進すべく、関係各所への値上げPRを中心に実施しており、今後販売店を通じユーザーとの本格的な交渉を進め、早期の満額獲得を目指す。
- ・ 石炭価格の高騰は沈静化したとはいえ依然高水準であり、今後も更に物流費、人件費、設備維持や更新費用が収益を圧迫することが予想され、需要環境が厳しさを増す中、現状の低収益状況のままではインフラの整備や国土の強靱化といった社会的使命を果たせないことも懸念されるため、事業継続のための収益構造を確立し、適正利益を獲得していくために今回の値上げは必要である。
- ・ 2025 年 4 月からの 2,000 円値上げが適正利益の獲得に十分か否かについては、現時点での評価は難しいと考えている。

Q2：米国事業について

- ・ 米国事業では、セメント、生コン販売がやや弱含みの一方、販売価格の上昇により前年同期比+31 億円になったとのことだが、増減の内訳を教えてください。また下期も同様の傾向と認識して良いか。

A2：

- ・ 前年同期比では減販影響が約△20 億円、販売価格差が約+50 億円の他、為替換算差益と同等規模のコストアップが発生している。
- ・ 下期の不安要素として第 4 四半期の天候が挙げられる。加えて米国景気の後退も懸念される等、現時点では予測困難なところも多く、今後の状況を見極めるためにはもう少し時間が必要と考えている。

Q3：豪州事業について

- ・ 足元では石炭F O Bが上昇基調であり豪州事業にとってポジティブと理解して良いか。

A3：

- ・ 豪州ではポジティブな反面、単体ではコストアップ要因であり、連結ではニュートラルと考えている。

Q4：四半期別連結セグメント別業績について

- ・ セメント事業が、2023年度第4四半期から2024年度第1四半期にかけて大幅な営業増益だが主要因は何か。

A4：

- ・ 国内セメント事業では値上げ効果と熱エネルギーコストの低減、米国事業では販売数量の増加により増益となっている。
- ・ 米国事業では例年第4四半期に天候影響を受け業績が悪化しており、第1四半期はその反動により改善する傾向にある。

Q5：セメント内需減少の業績影響について

- ・ セメント内需は第1四半期において減少しており、販売数量の下振れ影響は小さくないと見ているが、今後の業績下振れ影響について熱エネルギーコストダウン等で吸収できると認識して良いか。

A5：

- ・ 国内セメント需要は、第1四半期で前年比大きく下振れしているものの7月では持ち直しの兆候も出ており先行きを注視していく必要がある。販売量の下振れ度合いにもよるが、石炭価格が当初想定を下回っていることでカバーされる部分もある。今後の状況を見極めるためにはもう少し時間が必要と考えている。

Q6：セグメント別業績見通しについて

- ・ 第1四半期が締まった時点で、各セグメントにおける通期業績予想への進捗はどうか。

A6：

- ・ 第1四半期は、国内及び米国でのセメント減販影響を販売価格差益とコストダウンでカバーできており、収益としては計画通りに進捗している。
- ・ しかしながら、今後の不安要素として、セメント内需の減少、米国事業での第4四半期の天候影響等があり、現時点では不透明である。

Q7：生産体制について

- ・ 第1四半期ではセメント内需が減少しており、足元では持ち直しがあるものの、内需の弱含みが続くという認識の中、余剰生産能力についてどのように考えているか。

A7 :

- ・ 5月決算説明会時と同じ回答になるが、キルンの停止だけでなく、製造品種のバランスや輸出への対応、また石灰石鉱山の操業や廃棄物の処理等、サプライチェーン全体の中であらゆるバランスを考慮しながら、各工場にどのような役割を与えるべきかを慎重に検討していく。

以上